

主査等	凡例	評価必須項目(原則としてすべて評価する。)
		工事により対象となる項目
		対象項目数に加えない

考查項目	細別	対象項目	評価項目	評価対象項目	
I.施工体制	I.施工体制一般	*	1	作業の分担の範囲が、下請業者を含め、書面に明確に記載されている。	
		*	2	品質管理体制が、書面に適切に記載されている。	
		*	3	安全管理体制が、書面に適切に記載されている。	
		*	4	現場の施工体制(品質管理、安全管理を含む。)が、書面と一致している。	
		*	5	工事規模に応じた人員、機械配置がなされ施工している。	
		*	6	建設業退職金共済制度(建退共)の趣旨を下請業者等に説明するとともに、証紙の購入が適切に行われ、配布が受払簿等により適切に把握されている。	
		*	7	元請業者が、下請業者の施工結果を十分に検査している。	
		*	8	現場における施工体制に対し、本店等による十分な支援体制を整え実施している。	
		*	9	施工プロセスチェックリストのうち、施工体制一般について指示事項が無い。又は指示事項に対する改善が速やかに実施されている。	
			10	その他 理由:	
			11	(減点)該当すればd評価とする。 施工体制一般に関して、工事改善勧告書を出した。	
			12	(減点)該当すればe評価とする。 施工体制一般に関して、工事改善指示書を出した。	
		評価項目数			評価値が90%以上……………a……………施工体制が優れている。
		対象項目数			評価値が80%以上90%未満……………b……………施工体制が良好である。
		評価値			評価値が60%以上80%未満……………c……………施工体制が適切である。
評価			評価値が60%未満……………d……………施工体制がやや不適切である。 e……………施工体制が不適切である。		
			① 評価項目欄が水色の項目を評価対象とする場合は、対象項目欄に「*」印を付け、評価対象でない場合は空白のままとする。 また、評価項目欄が黄色の項目は、原則としてすべて評価する。 ② 削除する評価対象がある場合は削除後の対象項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%)=(評価項目数/対象項目数)×100		
II.配置技術者 (現場代理人等)		*	1	現場代理人として、工事全体の把握ができています。	
		*	2	現場代理人として、監督員への報告、協議等を書面で行っている。	
		*	3	契約書、設計図書等を理解し、現場に反映して工事を行っている。	
		*	4	工事請負契約書第19条(条件変更等)第1項(以下、「契約書第19条」という。)に基づく設計図書の照査を行っている。	
		*	5	書類及び資料が適切に整理されている。	
		*	6	作業環境、気象、地質条件等の把握及び対応に努めている。	
			7	工事に必要な専門技術者を選任し、配置している。	
			8	作業に必要な作業主任者を選任し、配置している。	
		*	9	主任(監理)技術者として技術的判断に優れ、良好な施工に努めている。	
		*	10	施工体制、施工状況を把握し、下請、部下等をよく指導している。	
		*	11	施工等に伴う提案又は工夫をもって工事を進めている。	
		*	12	施工プロセスチェックリストのうち、配置技術者(現場代理人・監理技術者・主任技術者)について指示事項が無い。又は指示事項に対する改善が速やかに実施されている。	
			13	その他 理由:	
			14	(減点)該当すればd評価とする。 配置技術者に関して、工事改善勧告書を出した。	
			15	(減点)該当すればe評価とする。 配置技術者に関して、工事改善指示書を出した。	
評価項目数			評価値が90%以上……………a……………配置技術者として優れている。		
対象項目数			評価値が80%以上90%未満……………b……………配置技術者として良好である。		
評価値			評価値が60%以上80%未満……………c……………配置技術者として適切である。		
評価			評価値が60%未満……………d……………配置技術者としてやや不適切である。 e……………配置技術者として不適切である。		
			① 評価項目欄が水色の項目を評価対象とする場合は、対象項目欄に「*」印を付け、評価対象でない場合は空白のままとする。 また、評価項目欄が黄色の項目は、原則としてすべて評価する。 ② 削除する評価対象がある場合は削除後の対象項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%)=(評価項目数/対象項目数)×100 ※1. 建築一式工事を施工する場合において、一式工事の内容である他の建設工事(専門工事)を自ら施工する時は、当該専門工事に関し資格を有する者を置くものとする。なお、主任技術者が当該専門工事の資格を有していれば、専門技術者を兼ねることができる。 ※2. 作業主任者を専任すべき作業は、労働安全衛生法施行令第6条による。 ※3. 特例監理技術者の指導により監理技術者補佐が適正に実施した場合は、特例監理技術者を評価するものとする。		

2.施工状況	I.施工管理	対象項目	評価項目	評価対象項目
		*		1 工事現場と設計図書の不一致や設計図書の不明瞭な部分があった場合は確認を行い施工がなされている。
		*		2 施工計画書が、工事着手前(計画内容に変更が生じた場合を含む。)に提出されている。
		*		3 施工計画書が、設計図書及び現場条件を反映した内容となっている。
		*		4 施工計画書に、出来形・品質確保のための記載がある。
		*		5 施工計画書に基づき、出来形・品質の管理を適切に行っている。
		*		6 施工図作成にあたり、関連工事と遅滞なく、調整が十分に図られている。
		*		7 工事打合せ書等の工事記録の整備が、適時に行われている。
		*		8 施工計画書の記載内容と現場施工方法が、一致している。
		*		9 一工程の施工の検査・確認の報告が、適時に行われている。
		*		10 現場内での整理整頓が、常時行われている。
		*		11 使用する建築材料(以下「材料」という。)-設備機材(以下「機材」という。)-の調達計画及び搬入後の管理が適切である。
		*		12 社内検査が計画的に行われている。
		*		13 独自のチェックリスト等の管理基準により、管理されている。
				14 低騒音、低振動及び排出ガス対策型の建設機械及び車両を使用している。
		*		15 建設廃棄物の処分及び建設副産物のリサイクルへの取り組みが、適切に行われている。
		*		16 施工プロセスチェックリストのうち、施工管理について指示事項が無い。又は指示事項に対する改善が速やかに実施されている。
				17 その他 理由:
				18 (減点)該当すればd評価とする。 施工管理に関して、工事改善勧告書を出した。
				19 (減点)該当すればe評価とする。 施工管理に関して、工事改善指示書を出した。
		評価項目数		評価値が90%以上.....a.....施工管理が優れている。 評価値が80%以上90%未満.....b.....施工管理が良好である。 評価値が60%以上80%未満.....c.....施工管理が適切である。 評価値が60%未満.....d.....施工管理がやや不適切である。 e.....施工管理が不適切である。 ① 評価項目欄が水色の項目を評価対象とする場合は、対象項目欄に「*」印を付け、評価対象でない場合は空白のままとする。 また、評価項目欄が黄色の項目は、原則としてすべて評価する。 ② 削除する評価対象がある場合は削除後の対象項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%)=(評価項目数/対象項目数)×100
		対象項目数		
		評価値		
		評価		
	II.工程管理	対象項目	評価項目	評価対象項目
		*		1 実施工程表が工事着手前に提出され、関連工事との調整も適切に行っている。
		*		2 現場での工程管理を詳細工程表やパソコン等を用いて、日常的に把握している。
		*		3 工程のフォローアップを実施し、受注者の責により関連工事及び施設入居者等に対し、影響を及ぼす工程の遅れがない。
				4 現場又は施工条件の変更への対応が積極的で、処理が早い。
				5 工程に関する各種制約等があるにもかかわらず、工期内にスムーズに作業を行っている。
		*		6 受注者の責による夜間や休日の作業がない。
		*		7 施工計画書に定めた休日予定のとおり、休日の確保を行っている。
		*		8 近隣住民(施設入居者等を含む。)との調整を積極的に行い、円滑な工事進捗を行っている。
		*		9 施工プロセスチェックリストのうち、工程管理について指示事項が無い。又は指示事項に対する改善が速やかに実施されている。
				10 その他 理由:
				11 (減点)該当すればd評価とする。 工程管理に関して、工事改善勧告書を出した。
				12 (減点)該当すればe評価とする。 工程管理に関して、工事改善指示書を出した。
		評価項目数		評価値が90%以上.....a.....工程管理が優れている。 評価値が80%以上90%未満.....b.....工程管理が良好である。 評価値が60%以上80%未満.....c.....工程管理が適切である。 評価値が60%未満.....d.....工程管理がやや不適切である。 e.....工程管理が不適切である。 ① 評価項目欄が水色の項目を評価対象とする場合は、対象項目欄に「*」印を付け、評価対象でない場合は空白のままとする。 また、評価項目欄が黄色の項目は、原則としてすべて評価する。 ② 削除する評価対象がある場合は削除後の対象項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%)=(評価項目数/対象項目数)×100
		対象項目数		
		評価値		
		評価		

III.安全対策		対象項目	評価項目	評価対象項目
	*			1 災害防止(工事安全)協議会等を設置し、1回/月以上活動し、記録が整備されている。
	*			2 店社パトロールを1回/月以上実施し、記録が整備されている。
	*			3 各種安全パトロールで指摘を受けた事項について、速やかに改善を図り、かつ関係者に是正指示している。
	*			4 安全教育・安全訓練等を適時適切に実施し、記録が整備されている。
	*			5 安全巡視、TBM、KY等を実施し、記録を整備している。
	*			6 新規入場者教育を実施し、実施内容に現場の特性が反映され、記録が整備されている。
	*			7 現場の各工程において適時適切に、安全管理の措置をしている。
				8 重機操作に際して、誘導員配置や重機と人の行動範囲の分離措置がなされている。
				9 山留め等について、設置後の点検及び管理がチェックリスト等を用いて実施されている。
				10 仮設工事において、設置完了時や使用中の点検及び管理がチェックリスト等を用いて実施されている。
	*			11 使用機械、工具等の点検整備等がなされ、十分に管理されている。
	*			12 工事現場における保安設備等の設置・管理が適切であり、よく整備されている。
				13 過積載防止に十分に取り組んでいる。
	*			14 施工プロセスチェックリストのうち、安全対策について指示事項が無い。又は指示事項に対する改善が速やかに実施されている。
				15 その他 理由:
				16 該当すればc評価とする。 安全対策に関して、法令遵守等の措置内容に該当する場合。
				17 (減点)該当すればd評価とする。 安全対策に関して、工事改善勧告書を出した。
				18 (減点)該当すればe評価とする。 安全対策に関して、工事改善指示書を出した。
				評価項目数 対象項目数 評価値 評価
				評価値が90%以上.....a.....安全対策が優れている。 評価値が80%以上90%未満.....b.....安全対策が良好である。 評価値が60%以上80%未満.....c.....安全対策が適切である。 評価値が60%未満.....d.....安全対策がやや不適切である。 e.....安全対策が不適切である。 ① 評価項目欄が水色の項目を評価対象とする場合は、対象項目欄に「*」印を付け、評価対象でない場合は空白のままとする。 また、評価項目欄が黄色の項目は、原則としてすべて評価する。 ② 削除する評価対象がある場合は削除後の対象項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%)=(評価項目数/対象項目数)×100
IV.対外関係		対象項目	評価項目	評価対象項目
				1 工事施工にあたり、関係官公署等の関係機関と協議及び調整を行い、トラブルの発生がない。
	*			2 工事施工にあたり、近隣住民(施設入居者等を含む。)と適切に協議及び調整を行っている。
	*			3 引渡し時に施設入居者に対し、保守管理について適切な説明を行っている。
	*			4 工事の目的及び内容を、工事看板などにより地域住民や通行者等に分りやすく周知している。
	*			5 近隣住民(施設入居者等を含む。)対策を実施し、苦情がない。又は苦情に対して適切な対応を行い、以後のトラブルがない。
				6 現場のイメージアップに、取り組んでいる。
	*			7 施工プロセスチェックリストのうち、対外関係について指示事項が無い。又は指示事項に対する改善が速やかに実施されている。
				8 その他 理由:
				9 (減点)該当すればd評価とする。 対外関係に関して、工事改善勧告書を出した。
				10 (減点)該当すればe評価とする。 対外関係に関して、工事改善指示書を出した。
				評価項目数 対象項目数 評価値 評価
				評価値が90%以上.....a.....対外関係が優れている。 評価値が80%以上90%未満.....b.....対外関係が良好である。 評価値が60%以上80%未満.....c.....対外関係が適切である。 評価値が60%未満.....d.....対外関係がやや不適切である。 e.....対外関係が不適切である。 ① 評価項目欄が水色の項目を評価対象とする場合は、対象項目欄に「*」印を付け、評価対象でない場合は空白のままとする。 また、評価項目欄が黄色の項目は、原則としてすべて評価する。 ② 削除する評価対象がある場合は削除後の対象項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%)=(評価項目数/対象項目数)×100

3. 出来形及び出来ばえ		I. 出来形		評価対象項目	
		*		1	材料・機材の出来形が、使用材料届等により確認でき、設計図書を満足している。
		*		2	施工図等が、設計図書を満足している。
		*		3	現場における出来形が設計図書を満足し、適切な施工である。
		*		4	施工計画書等で定めた出来形の管理基準に基づき、管理している。
		*		5	出来形の管理記録が適切にまとめられており、結果が良好である。
		*		6	出来形の管理方法を工夫している。
				7	解体又は撤去工事が含まれる場合、撤去対象物の範囲・数量等が確認でき、処分が適切である。
		*		8	不可視部分となる出来形が、工事写真、施工記録により確認できる。
				9	その他 理由:
				10	(減点)該当すればd評価とする。 出来形の管理に関して、工事改善勧告書を出した。
				11	(減点)該当すればe評価とする。 工事請負契約書第18条に基づき監督員が改造請求を行った。 又は出来形の管理に関して、工事改善指示書を出した。
		評価項目数			評価値が90%以上……………a……………出来形が優れている。 評価値が80%以上90%未満……………b……………出来形が良好である。 評価値が60%以上80%未満……………c……………出来形が適切である。 評価値が60%未満……………d……………出来形がやや不適切である。 e……………出来形が不適切である。 ① 評価項目欄が水色の項目を評価対象とする場合は、対象項目欄に「*」印を付け、評価対象でない場合は空白のままとする。 また、評価項目欄が黄色の項目は、原則としてすべて評価する。 ② 削除する評価対象がある場合は削除後の対象項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%)=(評価項目数/対象項目数)×100 ※1. 出来形の対象は「材料、機材」と「施工の完了したものであり、工事目的物の形状、寸法、位置、数量並びに管理記録と設計図書を対比することにより評価を行う。
		対象項目数			
		評価値			
		評価			
		II. 品質		評価対象項目	
	建築工事	*		1	材料・製品の品質が、使用材料届等により確認でき、設計図書を満足している。
	くい	*		2	品質確認記録の内容が、適切である。
	舗装	*		3	施工の各段階における完了時の、品質が適切である。
				4	躯体工事における施工の品質が、良好である。
				5	内外仕上げ工事における施工の品質が、良好である。
		*		6	不可視部分となる品質確認のための工事写真、施工記録等が整備されている。
				7	その他 理由:
	工事比率			8	(減点)該当すればd評価とする。 品質の管理に関して、工事改善勧告書を出した。
				9	(減点)該当すればe評価とする。 工事請負契約書第18条に基づき監督員が改造請求を行った。 又は品質の管理に関して、工事改善指示書を出した。
		評価項目数			評価値が90%以上……………a……………品質が優れている。 評価値が80%以上90%未満……………b……………品質が良好である。 評価値が60%以上80%未満……………c……………品質が適切である。 評価値が60%未満……………d……………品質がやや不適切である。 e……………品質が不適切である。 ① 評価項目欄が水色の項目を評価対象とする場合は、対象項目欄に「*」印を付け、評価対象でない場合は空白のままとする。 また、評価項目欄が黄色の項目は、原則としてすべて評価する。 ② 削除する評価対象がある場合は削除後の対象項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%)=(評価項目数/対象項目数)×100 ※1. 目的物の品質の水準を評価すること。 ※2. 品質の対象は、「材料、機材」と「施工が完了したもの(システムを含む)」があり、工事目的物の品質及び品質管理に関する各種の記録と設計図書を対比することにより技術的な評価を行う。 ※3. 品質の評価=建築工事の評価値(%)×建築工事の工事比率+電気設備工事の評価値(%)×電気設備工事の工事比率+機械設備工事の評価値(%)×機械設備工事の工事比率 ※4. 工事比率は必ず(%)を入力する。 ※5. 昇降機を設置する場合は、「機械設備工事」で別途評価すること。 ※6. くい、舗装のある場合は、本検査員「出来ばえ」の工事比率も記入すること。
		対象項目数			
		評価値			
		評価			
	II. 品質		評価対象項目		
	植栽工事	*		1	材料・製品の品質が、使用材料届等により確認でき、設計図書を満足している。
		*		2	品質確認記録の内容が、適切である。
		*		3	施工の各段階における完了時の、品質が適切である。
				4	植樹における施工の品質が良好である。
				5	芝張り、吹付けは種、地被類の新植における施工の品質が、良好である。
		*		6	不可視部分となる品質確認のための工事写真、施工記録等が整備されている。
				7	その他 理由:
	工事比率			8	(減点)該当すればd評価とする。 品質の管理に関して、工事改善勧告書を出した。
				9	(減点)該当すればe評価とする。 工事請負契約書第18条に基づき監督員が改造請求を行った。 又は品質の管理に関して、工事改善指示書を出した。
		評価項目数			評価値が90%以上……………a……………品質が優れている。 評価値が80%以上90%未満……………b……………品質が良好である。 評価値が60%以上80%未満……………c……………品質が適切である。 評価値が60%未満……………d……………品質がやや不適切である。 e……………品質が不適切である。 ① 評価項目欄が水色の項目を評価対象とする場合は、対象項目欄に「*」印を付け、評価対象でない場合は空白のままとする。 また、評価項目欄が黄色の項目は、原則としてすべて評価する。 ② 削除する評価対象がある場合は削除後の対象項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%)=(評価項目数/対象項目数)×100 ※1. 目的物の品質の水準を評価すること。 ※2. 品質の対象は、「材料、機材」と「施工が完了したもの(システムを含む)」があり、工事目的物の品質及び品質管理に関する各種の記録と設計図書を対比することにより技術的な評価を行う。 ※3. 品質の評価=建築工事の評価値(%)×建築工事の工事比率+電気設備工事の評価値(%)×電気設備工事の工事比率+機械設備工事の評価値(%)×機械設備工事の工事比率 ※4. 工事比率は必ず(%)を入力する。
		対象項目数			
		評価値			
		評価			

II. 品質		対象項目	評価項目	評価対象項目
電気設備工事	*		1	機材の品質が、使用材料届等により確認でき、設計図書を満足している。
	*		2	品質確認記録の内容が、適切である。
	*		3	施工の各段階における完了時の試験方法及び記録の方法が、適切である。
			4	システムの性能及び機能に関する試運転、確認方法等が適切であり、記録の内容が設計図書を満足している。
	*		5	機材及び施工の品質が、良好である。
	*		6	不可視部分となる品質確認のための工事写真、施工記録等が整備されている。
			7	その他 理由:
		8	(減点)該当すればd評価とする。 品質の管理に関して、工事改善勧告書を出した。	
		9	(減点)該当すればe評価とする。 工事請負契約書第18条に基づき監督員が改造請求を行った。 又は品質の管理に関して、工事改善指示書を出した。	
	評価項目数			評価値が90%以上.....a.....品質が優れている。 評価値が80%以上90%未満.....b.....品質が良好である。 評価値が60%以上80%未満.....c.....品質が適切である。 評価値が60%未満.....d.....品質がやや不適切である。 e.....品質が不適切である。 ① 評価項目欄が水色の項目を評価対象とする場合は、対象項目欄に「*」印を付け、評価対象でない場合は空白のままとする。 また、評価項目欄が黄色の項目は、原則としてすべて評価する。 ② 削除する評価対象がある場合は削除後の対象項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%) = (評価項目数 / 対象項目数) × 100 ※1. 目的物の品質の水準を評価すること。 ※2. 品質の対象は、「材料、機材」と「施工が完了したもの(システムを含む)」があり、工事目的物の品質及び品質管理に関する各種の記録と設計図書を対比することにより技術的な評価を行う。 ※3. 品質の評価 = 建築工事の評価値(%) × 建築工事の工事比率 + 電気設備工事の評価値(%) × 電気設備工事の工事比率 + 機械設備工事の評価値(%) × 機械設備工事の工事比率 ※4. 工事比率は必ず(%)を入力する。
	対象項目数			
	評価値			
	評価			

II. 品質		対象項目	評価項目	評価対象項目
機械設備工事	*		1	機材の品質が、使用材料届等により確認でき、設計図書を満足している。
	*		2	品質確認記録の内容が、適切である。
	*		3	施工の各段階における完了時の試験方法及び記録の方法が、適切である。
			4	システムの性能及び機能に関する試運転、確認方法等が適切であり、記録の内容が設計図書を満足している。
	*		5	機材及び施工の品質が、良好である。
	*		6	不可視部分となる品質確認のための工事写真、施工記録等が整備されている。
			7	その他 理由:
		8	(減点)該当すればd評価とする。 品質の管理に関して、工事改善勧告書を出した。	
		9	(減点)該当すればe評価とする。 工事請負契約書第18条に基づき監督員が改造請求を行った。 又は品質の管理に関して、工事改善指示書を出した。	
	評価項目数			評価値が90%以上.....a.....品質が優れている。 評価値が80%以上90%未満.....b.....品質が良好である。 評価値が60%以上80%未満.....c.....品質が適切である。 評価値が60%未満.....d.....品質がやや不適切である。 e.....品質が不適切である。 ① 評価項目欄が水色の項目を評価対象とする場合は、対象項目欄に「*」印を付け、評価対象でない場合は空白のままとする。 また、評価項目欄が黄色の項目は、原則としてすべて評価する。 ② 削除する評価対象がある場合は削除後の対象項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%) = (評価項目数 / 対象項目数) × 100 ※1. 目的物の品質の水準を評価すること。 ※2. 品質の対象は、「材料、機材」と「施工が完了したもの(システムを含む)」があり、工事目的物の品質及び品質管理に関する各種の記録と設計図書を対比することにより技術的な評価を行う。 ※3. 品質の評価 = 建築工事の評価値(%) × 建築工事の工事比率 + 電気設備工事の評価値(%) × 電気設備工事の工事比率 + 機械設備工事の評価値(%) × 機械設備工事の工事比率 ※4. 工事比率は必ず(%)を入力する。 ※5. 機械設備工事とは、暖冷房衛生設備工事及び昇降機設備工事の機械器具設置工事等をいう。
	対象項目数			
	評価値			
	評価			

□ 該当項目なし

考查項目	細目	評価項目	評価対象項目
5.創意工夫	準備・後片づけ関係	1	測量・位置出しにおける工夫
		2	現地調査方法の工夫
		3	その他 理由: 詳細評価内容:
	施工関係	1	施工に伴う器具・工具・装置類の工夫
		2	工場加工製品等の活用による副産物及び廃棄物の減少またはリサイクルに対する積極的な取り組み
		3	土工事、地業工事、鉄骨建て方、コンクリート工事等の施工関係の工夫
		4	建築材料・機材等の運搬・搬入等を含む施工方法に工夫
		5	電気設備工事等の配線、配管等の工夫
		6	暖冷房衛生設備工事等の配管、ダクト等の工夫
		7	照明・視界確保等の工夫
		8	仮排水、仮道路、迂回路等の計画・施工の工夫
		9	運搬車両・施工機械等の工夫
		10	型枠、足場、山留め等の仮設関係の工夫
		11	施工管理及び品質向上等の工夫
		12	プレハブ工法等の採用による工期短縮等の工夫
		13	仮設施工等の工夫
		14	既存施設・近隣等に対する騒音・振動対策等の工夫
15	保全への配慮による材料選定・施工方法等の工夫		
16	作業の安全性向上のための施工方法等の工夫		
17	その他 理由: 詳細評価内容:		
品質関係	1	集計ソフト等の活用と工夫	
	2	躯体工事の品質管理の工夫	
	3	建築材料・機材の検査・試験に関する工夫	
	4	施工の検査・試験に関する工夫	
	5	品質記録方法の工夫	
	6	その他 理由: 詳細評価内容:	
安全衛生関係	1	安全仮設備等の工夫(落下物、墜落・転落、挟まれ、看板、立入禁止柵、手すり、足場等)	
	2	安全衛生教育、技術向上講習会等、ミーティング、安全パトロール等に関する工夫	
	3	現場事務所、休憩所等の環境向上の工夫	
	4	酸欠対策・有毒ガス・可燃ガスの処理または粉塵防止策や作業中の換気等の工夫	
	5	周辺道路等の事故防止または一般交通確保等のための工夫	
	6	改修工事における既存施設利用者等に対する安全対策の工夫	
	7	作業時における作業環境改善等の工夫	
	8	ゴミの減量化、アイドリングストップの励行等の地球環境への工夫	
	9	その他 理由: 詳細評価内容:	
施工管理関係	1	出来形の管理等に関する工夫	
	2	施工計画書または写真記録等に関する工夫	
	3	出来形・品質に関する計測等の工夫及び集計の工夫	
	4	CAD、施工管理ソフト等の活用	
	5	施工合理化技術(※5)を活用した施工管理の工夫	
	6	その他 理由: 詳細評価内容:	
働き方改革	1	完全週休2日(土日)を達成している。	
	2	その他 理由: 詳細評価内容:	
その他	1	その他 理由:	
	2	その他 理由:	
			<p>※1. 特に評価すべき創意工夫事例を加点評価する。</p> <p>※2. 該当する数と重みを勘案して評価する。1項目1点を目安とするが、項目により1, 2, 3点で評価し、最大7点の加点評価とする。</p> <p>※3. 上記の項目の他に評価に値する企業の工夫があれば、その他に具体的内容を記載して加点する。 なお、下検査員が評価する「工事特性」との二重評価は行わない。</p> <p>※4. ○印を付けた評価項目について、評価内容等を詳細評価内容欄に記載する。</p> <p>※5. 施工合理化技術(プレハブ化、ユニット化、自動化施工(ICT施工、ロボット活用等)、BIM、ASP等を活用したもので施工の合理化に資するものに限る。)を採用した場合。</p> <p>※6. 創意工夫においては、「①施工計画書に記載された事項」、又は「②事前に受注者から創意工夫に関する資料が提出された事項」が、施工等に反映されていれば評価するものとする。</p> <p>※7. 入札時の総合評価の提案に係る項目は評価しない。</p> <p>※8. 創意工夫は、「実用新案・特許クラス」から「現場に適用した本当に些細な工夫ではあるが非常に役立つ軽微な工夫」まで様々なレベルがあるが、本項目では、実用新案・特許クラス以外も評価する。</p> <p>※9. 創意工夫は「1. 施工体制」及び「2. 施工状況」においても評価対象とされるが、企業努力を引き立たせるため、本考查項目でも再評価する。</p> <p>※10. 評価対象項目の選定及び詳細評価内容の記述は、下検査員との協議による。</p> <p>※11. その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。評価しない場合は評価項目欄を空白とする。</p>
	評価項目数		
	評価値点		(最大 7点)



6.社会性等	I.地域への貢献等	評価項目	評価対象項目	
			1	災害時等に地域への救援活動等に協力した。
			2	周辺地域の環境保全、生物保護等について、具体的な対策をした。
			3	現場事務所や作業現場の環境を周辺地域との景観に合わせる等、周辺地域との調和を図った。
			4	広報活動や現場見学会等を実施して、地域とのコミュニケーションを図った。
			5	地域イベントへの協力やボランティア活動等への協力や参加をした。
			6	その他 理由:
	評価項目数	【詳細評価内容: _____】		
	評価	a・・・地域への貢献が優れている。 a'・・・地域への貢献がやや優れている。 b・・・地域への貢献が良好である。 b'・・・地域への貢献がやや良好である。 c・・・他の評価に該当しない。 ※上記評価対象項目のうち、評価項目を総合的に判断して、 a,a',b,b',c評価を行う。		

※1. 下検査員は、主査等の意見を参考に総合的な評価を行う。

※2. 地域への貢献等とは、工事の施工に伴って、地域社会や住民に対する配慮等の貢献について加点評価する。

※3. ○印を付けた評価対象項目について、評価した内容及び効果があった項目を詳細評価内容欄に記載する。

7.法令遵守等		評価項目	法令遵守等の該当項目一覧表		
			措置内容		点数
			1	本件工事に関して指名停止3 か月以上又は入札参加除外	-10 点
			2	本件工事に関して指名停止2 か月以上3 か月未満	-8 点
			3	本件工事に関して指名停止1 か月以上2 か月未満	-6 点
			4	本件工事に関して指名停止1か月未満	-5 点
			5	本件工事に関して吹田市指名停止措置要領上の警告	-4 点
			6	本件工事に関して吹田市指名停止措置要領上の注意喚起	-2 点
			7	工事改善指示書の発行	-4 点
			8	工事改善勧告書の発行	-2 点
			9	工事関係者事故、又は公衆災害が発生したが、ヒューマンエラー等軽微なため、工事改善勧告書の発行以上の処分がなかった場合(不問で処分した案件。もらい事故や交通事故は含まない。)	-1 点
	10	該当なし	0 点		
	評価値点	【詳細内容: _____】			

※ 法令遵守等で減点を行った場合は【詳細内容】に理由を記入すること。

□ 該当項目なし

考査項目	細目	評価項目	評価対象項目
4.工事特性	建物規模への対応	※下記の対応事項に1つ以上○印が付けば2点の加点とする。	
		1	延べ面積10,000㎡以上の建物
		2	地上9階以上又は建物高さ31m以上の建物
		3	大空間のホール等を有する建物
		4	その他(理由: )
		【詳細評価内容: 】	
	評価値点		
	建物固有の機能の 難しさへの対応	※下記の対応事項に1つ以上○印が付けば2点の加点とする。	
		1	対象建物の耐震レベル
		2	建物機能の特殊性
		3	その他(理由: )
			[評価技術事例]
		・建築工事で官庁施設の総合耐震・対津波計画基準においてI類及びA類に属する工事	
		・電気又は機械設備工事で官庁施設の総合耐震・対津波計画基準において甲類に属する工事	
		・研究施設、美術館等、特殊機能・設備の有る建物	
	【詳細評価内容: 】		
評価値点			
建物固有の施工技 術の難しさへの対 応	※下記の対応事項に1つ以上○印が付けば2点の加点とする。		
	1	建築材料、設備機材、工法について、提案がある場合 【総合評価における技術提案は除く。】	
	2	設計条件として、工法、材料及び設備システム(機材を含む)の特殊性	
	3	制約条件等があり、施工難度が特に高い場合	
	4	その他(理由: )	
		[評価技術事例]	
		・パイロット工事又は特異な試験フィールド工事で特許工法等の技術的に検討が必要な工事	
		・特殊な工法及び材料等を採用した工事	
		・特殊な設備システムを採用した工事	
		・免震装置を設ける工事	
	・大規模な山留め工法が必要な工事		
	・敷地内又は周辺部の工作物、配管・配線等の大規模な移設、切り直しを行う工事		
	・仮設備等を設け、システムを停止することなく配管・配線等の大規模な盛替え等を必要とする改修工事		
	【詳細評価内容: 】		
評価値点			
厳しい自然・地盤 条件への対応	※下記の対応事項に1つ以上○印が付けば2点の加点とする。		
	1	湧水の発生、地下水の影響(地盤掘削時)	
	2	軟弱地盤、支持地盤の影響	
	3	雨・雪・風・気温等の影響	
	4	その他(理由: )	
	[評価技術事例]		
	・地下水位が高く、ウエルポイント等の排水設備が必要な工事		
	・液状化対策工法や地盤改良を伴う工事		
	・冬期施工のため、大規模な雪寒冬囲いをする必要があり、冬期の養生温度の管理や施工スペースの制限を受けた工事		
	【詳細評価内容: 】		
評価値点			

都市部等の作業環境、厳しい周辺環境、社会条件との対応	※下記の対応事項に1つ以上○印が付けば2点の加点とする。	
	1	地中埋設物等の作業障害
	2	工事の影響に配慮すべき建物等の近接物
	3	周辺住民等に対する騒音・振動の配慮
	4	周辺水域環境に対する水質汚濁の配慮
	5	その他(理由: )
		【評価技術事例】
		・工事に支障をきたす地中埋設物、酸欠、有毒・可燃性ガス等の対策が必要な工事
		・工事場所周辺に近接工事があり、困難な調整を要する工事
		・場内に汚水処理装置(水替え)を必要とする工事
	・住居専用地域等で、騒音などの時間規制が条例で定められてる工事	
	・有線電気通信法による届出が必要なテレビ電波障害対策工事で、困難な調整を行った工事	
	【詳細評価内容: ]	
評価値点		
施工現場での対応	※下記の対応事項に1つに○印が付けば4点の加点とし、最大10点とする。	
		【長期工事における安全確保への対応】
		12ヶ月を超える工期で事故が無く完成した工事 (ただし全面一時中止期間は除く。)
		【災害等での臨機の措置】
		地震、台風などにおいて、適切に臨機の対応を行った工事
		【施工状況(条件)に対応した施工・工法等】
		工事の実施にあたり各種の制約があり、工程的にも特に厳しく、施工の制限を受けた工事
		工程上他工事の制約を受け、機械、人員の増強を行った工事
		休日・夜間作業が工程の過半を超える工事
		施設を使用しながらの工事で、工程的な制約が特に厳しい工事
		特に困難な調整を要する他工事(近接工区)の受注者が複数ある工事
		外来者の多い施設で、作業範囲内に外来者・通行人等の動線がある工事
		特殊な室などで、工種が輻輳し困難な調整を要する工事
		施工ヤードが狭く、高さ制限もあり、施工及び機械の移動や旋回等に制約を受けた工事
		同一敷地内における施設を使用しながらの建て替え工事で、工程の制約等が特に厳しい工事
		その他(理由: )
		【詳細評価内容: ]
	評価値点	
評価値点計		(最大 20点)
※1. 工事特性は、最大20点の加点評価とする。なお、1項目に複数の内容がある場合又は、対象範囲が広い場合は、それ以上の点数を与えても良い。 ※2. 主査等が評価する「創意工夫」との二重評価は行わない。 ※3. 評価にあたっては、主査等の意見も参考に評価する。 ※4. ○印を付した評価項目について、評価内容を詳細評価内容欄に記載する。 ※5. 特殊な工事で上記によらない場合は、該当評価対象項目数と重みを勘案して評価する。 ※6. 「建物規模への対応」は、新築又は増築工事で評価技術の内容に該当する場合に評価する。改修工事においては、建物規模における全面的な工事を行う場合に適用とする。 ※7. 工事特性においては、「事前に受注者から施工の工夫に関する資料が提出された事項」等が、施工等に反映されていれば評価するものとする。 ※8. その他を評価項目に加える場合は、必ず理由を記入する。評価しない場合は評価項目欄を空白とする。		

**本検査員**

凡例		主査等(評価項目)と同評価項目
		評価必須項目(原則としてすべて評価する。)
		工事により対象となる項目
		対象項目数に加えない

注意……自動入力されている評価に疑義がある場合、監督員と協議すること

考査項目	細 別	対象項目	評価項目	評 価 対 象 項 目								
2.施工状況	I.施工管理	*	1	工事現場と設計図書の不一致や設計図書の不明瞭な部分があった場合は確認を行い施工がなされていることが確認できる。								
		*	2	施工計画書が、設計図書及び現場条件を反映した内容となっていることが確認できる。								
		*	3	施工計画書に、出来形・品質確保のための記載があり、管理のための方法が確認できる。								
		*	4	施工計画書の記載内容と現場施工方法が、一致していることが確認できる。								
		*	5	工事記録の整備が、適切に行われていることが確認できる。								
		*	6	使用する材料、機材の搬入後の管理が適切であることが確認できる。								
		*	7	一工程の施工の確認の報告が、適切に行われていることが確認できる。								
		*	8	建設廃棄物の処分及び建設副産物等のリサイクルへの取り組みが、適切に行われていることが確認できる。								
		*	9	社内検査が計画的に行われ、出来形、品質等の管理を工事全般にわたって十分に行っていることが確認できる。								
		*	10	独自のチェックリスト等の管理基準により、日常的に管理されていることが確認できる。								
		*	11	工事の関係書類及び資料の整理がよい。								
			12	その他 理由:								
			13	(減点)該当すればd評価とする。 施工管理に関して、工事改善勧告書を出した。								
			14	(減点)該当すればe評価とする。 施工管理に関して、工事改善指示書を出した。								
		<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>評価項目数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>対象項目数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>評 価 値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>評 価</td> <td></td> </tr> </table> <p>評価値が90%以上……a……施工管理が優れている。            評価値が80%以上90%未満……b……施工管理が良好である。            評価値が60%以上80%未満……c……施工管理が適切である。            評価値が60%未満……d……施工管理がやや不適切である。            e……施工管理が不適切である。</p> <p>① 評価項目欄が水色の項目を評価対象とする場合は、対象項目欄に「*」印を付け、評価対象でない場合は空白のままとする。また、評価項目欄が黄色の項目は、原則としてすべて評価する。            ② 削除する評価対象がある場合は削除後の対象項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。            ③ 評価値(%) = (評価項目数/対象項目数)×100</p>	評価項目数		対象項目数		評 価 値		評 価			
評価項目数												
対象項目数												
評 価 値												
評 価												
3.出来形及び出来ばえ	I.出来形	*	1	材料・機材の出来形が、使用材料届等により確認でき、設計図書を満足していることが確認できる。								
		*	2	施工図等が、設計図書を満足していることが確認できる。								
		*	3	施工計画書等で出来形の管理基準を設定し、計画に基づく管理を実施していることが確認できる。								
		*	4	出来形の管理記録の整備が、良好であることが確認できる。								
		*	5	出来形の管理方法が、工夫されていることが確認できる。								
		*	6	現場における出来形が、設計図書を満足し、適切な施工であることが確認できる。								
		*	7	現場における出来形が良好で、施工の精度が高い。								
		*	8	不可視部分となる出来形が、工事写真、施工記録により、確認できる。								
		*	9	解体又は撤去工事が含まれる場合、撤去対象物の数量等が確認でき、処分が適切であることが確認できる。								
			10	その他 理由:								
			11	(減点)該当すればd評価とする。 出来形の管理に関して、工事改善勧告書を出した。								
			12	(減点)該当すればe評価とする。 出来形が不適切であったため、工事請負契約書第32条に基づく修補指示を本検査員が行った。								
				<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>評価項目数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>対象項目数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>評 価 値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>評 価</td> <td></td> </tr> </table> <p>評価値が90%以上……a……出来形が特に優れている。            評価値が80%以上90%未満……a'……出来形が優れている。            評価値が70%以上80%未満……b……出来形が特に良好である。            評価値が60%以上70%未満……b'……出来形が良好である。            評価値が50%以上60%未満……c……出来形が適切である。            評価値が50%未満……d……出来形がやや不適切である。            e……出来形が不適切である。</p> <p>① 評価項目欄が水色の項目を評価対象とする場合は、対象項目欄に「*」印を付け、評価対象でない場合は空白のままとする。また、評価項目欄が黄色の項目は、原則としてすべて評価する。            ② 削除する評価対象がある場合は削除後の対象項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。            ③ 評価値(%) = (評価項目数/対象項目数)×100</p> <p>※1. 出来形の対象は「材料、機材」と「施工の完了したもの」であり、工事的物の形状、寸法、位置、数量並びに管理記録と設計図書を対比することにより評価を行う。</p>	評価項目数		対象項目数		評 価 値		評 価	
		評価項目数										
対象項目数												
評 価 値												
評 価												

II. 品質		対象項目	評価項目	評価対象項目
建築工事	*		1	材料・製品の品質が、使用材料届等により確認でき、設計図書を満足していることが確認できる。
	くい	*	2	施工の各段階における完了時の試験及び記録の方法が、適切であることが確認できる。
		*	3	材料の品質確認記録の内容が、適切であることが確認できる。
	舗装	*	4	品質の確認結果が、分りやすく整理されていることが確認できる。
		*	5	施工の品質が適切であり、設計図書を満足していることが確認できる。
	工事比率		6	建具、ユニット等の性能及び機能に関する確認方法が適切であり、記録の内容が設計図書を満足していることが確認できる。
			7	躯体工事における施工の品質が、施工記録等により確認でき、良好であることが確認できる。
			8	内外仕上げ工事における施工の品質が、施工記録等により確認でき、良好であることが確認できる。
			9	その他の工事(躯体・内外仕上げを除く)における施工の品質が、施工記録等により確認でき、良好であることが確認できる。
		*	10	不可視部分となる品質が、工事写真、施工記録により確認できる。
			11	中間検査や既済検査での工夫や良好な施工の品質が、継続して確認できる。
		12	その他 理由:	
	13	(減点)該当すればd評価とする。 品質の管理に関して、工事改善勧告書を出した。		
	14	(減点)該当すればe評価とする。 品質が不適切であったため、工事請負契約書第32条に基づく修補指示を本検査員が行った。		
評価項目数		評価値が90%以上……………a……………品質が特に優れている。		
対象項目数		評価値が80%以上90%未満……………a'……………品質が優れている。		
評価値		評価値が70%以上80%未満……………b……………品質が特に良好である。		
評価		評価値が60%以上70%未満……………b'……………品質が良好である。		
		評価値が50%以上60%未満……………c……………品質が適切である。		
		評価値が50%未満……………d……………品質がやや不適切である。 e……………品質が不適切である。		
		① 評価項目欄が水色の項目を評価対象とする場合は、対象項目欄に「*」印を付け、評価対象でない場合は空白のままとする。また、評価項目欄が黄色の項目は、原則としてすべて評価する。		
		② 削除する評価対象がある場合は削除後の対象項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。		
		③ 評価値(%) = (評価項目数 / 対象項目数) × 100		
		※1. 目的物の品質の水準を評価すること。		
		※2. 品質の対象は、「材料、機材」と「施工が完了したもの(システムを含む。)」があり、工事目的物の品質及び品質管理に関する各種の記録と設計図書を対比することにより技術的な評価を行う。		
		※3. 品質の評価 = 建築工事の評価値(%) × 建築工事の工事比率 + 電気設備工事の評価値(%) × 電気設備工事の工事比率 + 機械設備工事の評価値(%) × 機械設備工事の工事比率		
		※4. 工事比率は必ず(%)を入力する。		
		※5. 昇降機を設置する場合は、「機械設備工事」で別途評価すること。		
II. 品質		対象項目	評価項目	評価対象項目
植栽工事	*		1	材料・製品の品質が、使用材料届等により確認でき、設計図書を満足していることが確認できる。
		*	2	施工の各段階における完了時の記録の方法が、適切であることが確認できる。
		*	3	材料の品質確認記録の内容が、適切であることが確認できる。
	工事比率	*	4	品質の確認結果が、分りやすく整理されていることが確認できる。
		*	5	施工の品質が適切であり、設計図書を満足していることが確認できる。
			6	土壌硬度試験、土壌試験(PH)等の植栽基盤の確認を実施し、施工に反映している。
			7	植樹における施工の品質が良好である。
			8	芝張り、吹付けは種、地被類の新植における施工の品質が、良好である。
			9	その他の工事(樹木移植、土壌改良等含む。伐根等撤去工事は除く。)における施工の品質が、施工記録等により確認でき、良好であることが確認できる。
	*	10	不可視部分となる品質が、工事写真、施工記録により確認できる。	
		11	中間検査や既済検査での工夫や良好な施工の品質が、継続して確認できる。	
		12	その他 理由:	
	13	(減点)該当すればd評価とする。 品質の管理に関して、工事改善勧告書を出した。		
	14	(減点)該当すればe評価とする。 品質が不適切であったため、工事請負契約書第32条に基づく修補指示を本検査員が行った。		
評価項目数		評価値が90%以上……………a……………品質が特に優れている。		
対象項目数		評価値が80%以上90%未満……………a'……………品質が優れている。		
評価値		評価値が70%以上80%未満……………b……………品質が特に良好である。		
評価		評価値が60%以上70%未満……………b'……………品質が良好である。		
		評価値が50%以上60%未満……………c……………品質が適切である。		
		評価値が50%未満……………d……………品質がやや不適切である。 e……………品質が不適切である。		
		① 評価項目欄が水色の項目を評価対象とする場合は、対象項目欄に「*」印を付け、評価対象でない場合は空白のままとする。また、評価項目欄が黄色の項目は、原則としてすべて評価する。		
		② 削除する評価対象がある場合は削除後の対象項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。		
		③ 評価値(%) = (評価項目数 / 対象項目数) × 100		
		※1. 目的物の品質の水準を評価すること。		
		※2. 品質の対象は、「材料、機材」と「施工が完了したもの(システムを含む。)」があり、工事目的物の品質及び品質管理に関する各種の記録と設計図書を対比することにより技術的な評価を行う。		
		※3. 品質の評価 = 建築工事の評価値(%) × 建築工事の工事比率 + 電気設備工事の評価値(%) × 電気設備工事の工事比率 + 機械設備工事の評価値(%) × 機械設備工事の工事比率		
		※4. 工事比率は必ず(%)を入力する。		

II. 品質		対象項目	評価項目	評価対象項目
電気設備工事	*		1	機材の品質が、使用材料届等により確認でき、設計図書を満足していることが確認できる。
	*		2	施工の各段階における完了時の試験及び記録の方法が、適切であることが確認できる。
	*		3	機材の品質確認記録の内容が、適切であることが確認できる。
	工事比率	*	4	品質の確認結果が、分りやすく整理されていることが確認できる。
	*		5	施工の品質が適切であり、設計図書を満足していることが確認できる。
	*		6	施工の品質が、試験や検査等の結果の記録により、優れていることが確認できる。
			7	システムの性能及び機能に関する試運転の確認方法が適切であり、記録の内容が、設計図書を満足していることが確認できる。
			8	システムの性能及び機能に関する試運転の確認方法に工夫がある。
	*		9	不可視部分となる品質が、工事写真、施工記録により確認できる。
			10	中間検査や既済検査での工夫や良好な施工の品質が、継続して確認できる。
			11	運転・点検上の表示及び危険箇所などの表示等が明確で解りやすい。
			12	その他 理由:
		13	(減点) 該当すればd評価とする。 品質の管理に関して、工事改善勧告書を出した。	
		14	(減点) 該当すればe評価とする。 品質が不適切であったため、工事請負契約書第32条に基づく修補指示を本検査員が行った。	
	評価項目数	評価値が90%以上……………a……………品質が特に優れている。		
	対象項目数	評価値が80%以上90%未満……………a'……………品質が優れている。		
	評価値	評価値が70%以上80%未満……………b……………品質が特に良好である。		
	評価	評価値が60%以上70%未満……………b'……………品質が良好である。		
		評価値が50%以上60%未満……………c……………品質が適切である。		
		評価値が50%未満……………d……………品質がやや不適切である。		
		e……………品質が不適切である。		
		① 評価項目欄が水色の項目を評価対象とする場合は、対象項目欄に「*」印を付け、評価対象でない場合は空白のままとする。また、評価項目欄が黄色の項目は、原則としてすべて評価する。		
		② 削除する評価対象がある場合は削除後の対象項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。		
		③ 評価値(%) = (評価項目数 / 対象項目数) × 100		
		※1. 目的物の品質の水準を評価すること。		
		※2. 品質の対象は、「材料、機材」と「施工が完了したもの(システムを含む。)」があり、工事的物の品質及び品質管理に関する各種の記録と設計図書を対比することにより技術的な評価を行う。		
		※3. 品質の評価 = 建築工事の評価値(%) × 建築工事の工事比率 + 電気設備工事の評価値(%) × 電気設備工事の工事比率 + 機械設備工事の評価値(%) × 機械設備工事の工事比率		
		※4. 工事比率は必ず(%)を入力する。		

II. 品質		対象項目	評価項目	評価対象項目
機械設備工事	*		1	機材の品質が、使用材料届等により確認でき、設計図書を満足していることが確認できる。
	*		2	施工の各段階における完了時の試験及び記録の方法が、適切であることが確認できる。
	*		3	機材の品質確認記録の内容が、適切であることが確認できる。
	工事比率	*	4	品質の確認結果が、分りやすく整理されていることが確認できる。
	*		5	施工の品質が適切であり、設計図書を満足していることが確認できる。
	*		6	施工の品質が、試験や検査等の結果の記録により、優れていることが確認できる。
			7	システムの性能及び機能に関する試運転の確認方法が適切であり、記録の内容が、設計図書を満足していることが確認できる。
			8	システムの性能及び機能に関する試運転の確認方法に工夫がある。
	*		9	不可視部分となる品質が、工事写真、施工記録により確認できる。
			10	中間検査や既済検査での工夫や良好な施工の品質が、継続して確認できる。
			11	運転・点検上の表示及び危険箇所などの表示等が明確で解りやすい。
			12	その他 理由:
		13	(減点) 該当すればd評価とする。 品質の管理に関して、工事改善勧告書を出した。	
		14	(減点) 該当すればe評価とする。 品質が不適切であったため、工事請負契約書第32条に基づく修補指示を本検査員が行った。	
	評価項目数	評価値が90%以上……………a……………品質が特に優れている。		
	対象項目数	評価値が80%以上90%未満……………a'……………品質が優れている。		
	評価値	評価値が70%以上80%未満……………b……………品質が特に良好である。		
	評価	評価値が60%以上70%未満……………b'……………品質が良好である。		
		評価値が50%以上60%未満……………c……………品質が適切である。		
		評価値が50%未満……………d……………品質がやや不適切である。		
		e……………品質が不適切である。		
		① 評価項目欄が水色の項目を評価対象とする場合は、対象項目欄に「*」印を付け、評価対象でない場合は空白のままとする。また、評価項目欄が黄色の項目は、原則としてすべて評価する。		
		② 削除する評価対象がある場合は削除後の対象項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。		
		③ 評価値(%) = (評価項目数 / 対象項目数) × 100		
		※1. 目的物の品質の水準を評価すること。		
		※2. 品質の対象は、「材料、機材」と「施工が完了したもの(システムを含む。)」があり、工事的物の品質及び品質管理に関する各種の記録と設計図書を対比することにより技術的な評価を行う。		
		※3. 品質の評価 = 建築工事の評価値(%) × 建築工事の工事比率 + 電気設備工事の評価値(%) × 電気設備工事の工事比率 + 機械設備工事の評価値(%) × 機械設備工事の工事比率		
		※4. 工事比率は必ず(%)を入力する。		
		※5. 機械設備工事とは、暖冷房衛生設備工事及び昇降機設備工事の機械器具設置工事等をいう。		

Ⅲ. 出来ばえ		対象項目	評価項目	評価対象項目
建築工事		*		1 きめ細かな施工がなされ、取り合いの納まりや端部まで仕上がりが良い。
工事比率				2 関連工事(工種)又は既存部分との調整がなされ、調和が良い仕上がりにある。
				3 使い勝手や使用者の安全に対する配慮に優れている。
				4 仕上がりの状態が良好で、作動状態も良好である。
				5 色調が均一であり、色むら等が無く、全体的な美観が良好である。
				6 材料・製品の割付や通り等が良く、全体的な出来ばえが良好である。
				7 保身に配慮した施工がなされている。
				8 その他 理由:
				9 (減点)該当すればd評価とする。 出来ばえが劣っている。
評価項目数				評価値が90%以上……………a……………全体的な完成度が優れている。
対象項目数				評価値が80%以上90%未満……………b……………全体的な完成度が良好である。
評価値				評価値が80%未満……………c……………全体的な完成度が適切である。
評価				d……………全体的な完成度が劣っている。
① 評価項目欄が水色の項目を評価対象とする場合は、対象項目欄に「*」印を付け、評価対象でない場合は空白のままとする。また、評価項目欄が黄色の項目は、原則としてすべて評価する。 ② 削除する評価対象がある場合は削除後の対象項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%) = (評価項目数/対象項目数)×100 ④ 対象項目数が2以下の場合は、c評価とする。 ※1. 全体的な仕上がり状態、機能を評価する。 ※2. 出来ばえの評価は、全体的な仕上がり状態、形状、配置及び関連工事との調和、目的物としての機能などについて、観察、計測等により技術的な評価を行う。 ※3. 出来ばえの評価 = 建築工事の評価値(%)×建築工事の工事比率 + 電気設備工事の評価値(%)×電気設備工事の工事比率 + 機械設備工事の評価値(%)×機械設備工事の工事比率 ※4. 建築工事に「くい」又は「舗装」がある場合は、当該工事比率を「くい」、「舗装」へ記載する。建築工事の工事比率は当該工事比率を控除し算出する。 ※5. 工事比率は必ず(%)を入力する。 ※6. 昇降機を設置する場合は、「機械設備工事」で別途評価すること。				

Ⅲ. 出来ばえ		対象項目	評価項目	評価対象項目
くい		*		1 施工記録等から不可視部の出来ばえの良さがうかがえる。
工事比率		*		2 土工関係等の仕上げ状況が良い
		*		3 くいの出しの精度のよさがうかがえる。
		*		4 くい/support地盤の確認が適切にされている。
		*		5 地盤改良等施工重機の支持地盤に対する措置が適切にされていることが確認できる。
		*		6 掘削安定液の管理が適切であることが確認できる。
				7 その他 理由:
				8 (減点)該当すればd評価とする。 出来ばえが劣っている。
評価項目数				評価値が90%以上……………a……………全体的な完成度が優れている。
対象項目数				評価値が80%以上90%未満……………b……………全体的な完成度が良好である。
評価値				評価値が80%未満……………c……………全体的な完成度が適切である。
評価				d……………全体的な完成度が劣っている。
① 評価項目欄が水色の項目を評価対象とする場合は、対象項目欄に「*」印を付け、評価対象でない場合は空白のままとする。また、評価項目欄が黄色の項目は、原則としてすべて評価する。 ② 削除する評価対象がある場合は削除後の対象項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%) = (評価項目数/対象項目数)×100 ④ 対象項目数が2以下の場合は、c評価とする。 ※1. 全体的な仕上がり状態、機能を評価する。 ※2. 出来ばえの評価は、全体的な仕上がり状態、形状、配置及び関連工事との調和、目的物としての機能などについて、観察、計測等により技術的な評価を行う。 ※3. 出来ばえの評価 = 建築工事の評価値(%)×建築工事の工事比率 + 電気設備工事の評価値(%)×電気設備工事の工事比率 + 機械設備工事の評価値(%)×機械設備工事の工事比率 ※4. 建築工事に「くい」又は「舗装」がある場合は、当該工事比率を「くい」、「舗装」へ記載する。建築工事の工事比率は当該工事比率を控除し算出する。 ※5. 工事比率は必ず(%)を入力する。				

Ⅲ. 出来ばえ		対象項目	評価項目	評価対象項目
舗装		*		1 きめ細かな施工がなされ、取り合いの納まりや端部まで仕上がりが良い。
工事比率		*		2 全体的な美観が良好である。
		*		3 舗装や造成の平坦性がよく、雨水処理が適正である。
		*		4 構造物や舗装表面等の仕上がりの状態が良好である。
		*		5 施工後の清掃が行き届いている。
				6 近隣への配慮が伺える。
				7 その他 理由:
				8 (減点)該当すればd評価とする。 出来ばえが劣っている。
評価項目数				評価値が90%以上……………a……………全体的な完成度が優れている。
対象項目数				評価値が80%以上90%未満……………b……………全体的な完成度が良好である。
評価値				評価値が80%未満……………c……………全体的な完成度が適切である。
評価				d……………全体的な完成度が劣っている。
① 評価項目欄が水色の項目を評価対象とする場合は、対象項目欄に「*」印を付け、評価対象でない場合は空白のままとする。また、評価項目欄が黄色の項目は、原則としてすべて評価する。 ② 削除する評価対象がある場合は削除後の対象項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%) = (評価項目数/対象項目数)×100 ④ 対象項目数が2以下の場合は、c評価とする。 ※1. 全体的な仕上がり状態、機能を評価する。 ※2. 出来ばえの評価は、全体的な仕上がり状態、形状、配置及び関連工事との調和、目的物としての機能などについて、観察、計測等により技術的な評価を行う。 ※3. 出来ばえの評価 = 建築工事の評価値(%)×建築工事の工事比率 + 電気設備工事の評価値(%)×電気設備工事の工事比率 + 機械設備工事の評価値(%)×機械設備工事の工事比率 ※4. 建築工事に「くい」又は「舗装」がある場合は、当該工事比率を「くい」、「舗装」へ記載する。建築工事の工事比率は当該工事比率を控除し算出する。 ※5. 工事比率は必ず(%)を入力する。				

